



粘土気持ちいい～

「土ねんどの中に粘土あるんじゃない？」

粘土はどこから採れるのかと話題になったとき、H君がこうつぶやきました。土ねんどとは、畑につくった水路づくりでシートを固定するために使った土のことです。この土ねんどから粘土を取り出せるのか実験をしました。

土ねんどから、石や根っこを取り除きました。



下にたまっていない泥水を別の器に移しました。



水を入れてよくかき混ぜた後、30秒待ちました。



1日おいておき、上澄みの水を流すと底に土がたまりました。

底にたまっている土を触ってみると、さらっとする感触。これでは、水が多すぎて、粘土とは言えないさわり心地でした。

「ファイヤーすればいいんじゃない」のWさんの言葉から実際に加熱して、水分を減らしてみることになりました。

理科室に移動し、アルコールランプで加熱してみました。「うわあ。ねちよねちよしてきた。」と粘土ならではのあの感触が現れてきました。冷えたのを確認し、手でこねてみました。「粘土気持ちいい～」とその感触を楽しんでいる様子もありました。そして、粘土を取り出すまでの土ねんどの様子を確認してみました。

- ・掘ったばかりの土ねんど：「大きな石などがある」「くずれやすい」
- ・ふるいをかけた土ねんど：「さらさらしている」「泥団子とかに使えそう」
- ・土ねんどから取り出した粘土：「触ると気持ちよかった」「器が作れそう」

などの違いを感じているようでした。また、「器が作れそう」につながる「土器作れるんじゃない？」という考えも出ました。土器について話題があがったので、土器についてきいてみました。すると、「土器は、粘土でつくった器のことだよ。」「でもさ、(粘土が)もっとたくさん必要じゃない。」「校庭の土はどう？あそこのはかたまりやすかったし。」「畑の土も使えそうじゃない。」「それぞれで調べてみたらどう？」と、色々な場所から粘土をとる作戦が始まりました。

「畑の土みてー。(日光に当たって)光ってる。触るとねちよねちよしてるよ。」と色々な場所の土の感触を確かめたり、「桜の木の下の土は固まりやすいからスコップでくわいてから、ふるいにかけてるんだよ。」と土の特徴に応じた工夫をしたり、それぞれが粘土探しをしています。そんな中、Kくんは、「(桜の木の下の土で)器作ってみただけどさー。すぐにぼろぼろになっちゃうんだよー。」と早速、器の形にできるのか挑戦していました。また、Rさんは、「土器を作るためには、どんな粘土がいいんだろう。」と振り返っています。私たちの足元に当たり前のようにある土の中にある粘土は、色々奥が深そうです。私も粘土に触れながら、その気持ちよさを味わっています。学校の土にある粘土探しから、粘土を使ったものづくりまで目を向けています。これからの活動がわくわくどきどきです。

